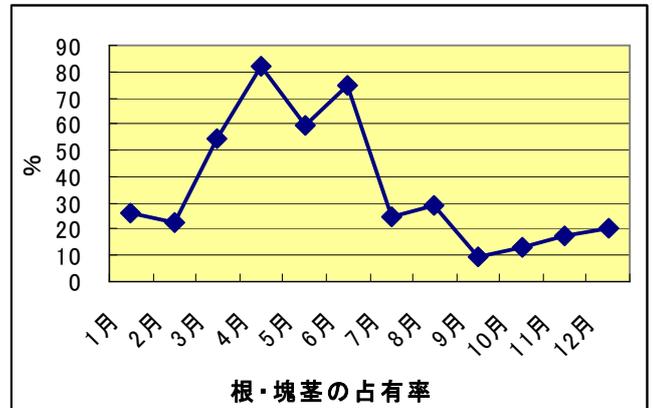


# イノシシは何を食べている？

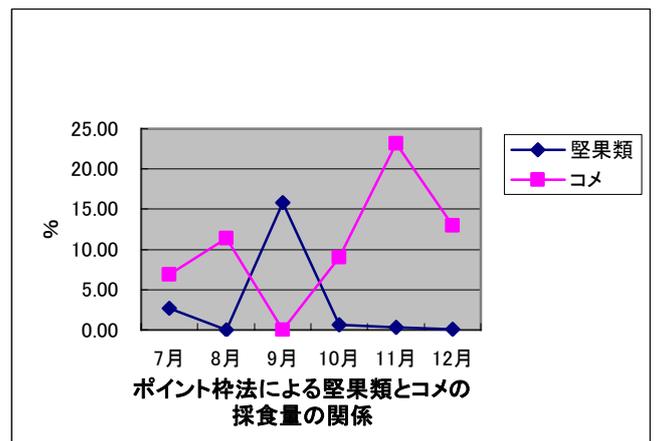
## 1. 春の主食はタケノコ

イノシシがタケノコを好むことは経験的に知られていたが、胃内容に占める根・塊茎の割合を調べたところ、3月から6月にかけて全食物の50%以上、多い月では80%に達した。とくにこの時期は根・塊茎のほとんどがタケノコであり、イノシシにとって非常に重要な食物であることが明らかとなった。



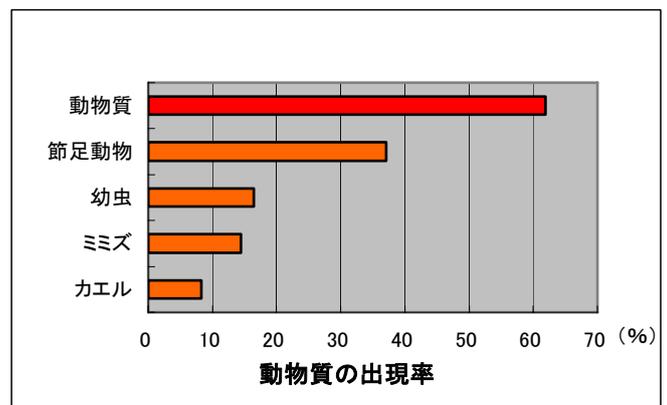
## 2. イネは8月に採食

右の図はドングリが不作であった年のものだが、それでもドングリが利用できる9月にはイネの食害が抑えられることが分かる。イネの食害に注意すべきは8月である。また台風被害によりイネの収穫を断念したり、ヒコ生えを放置した田では10月以降にイノシシの利用がある。イノシシを田畑から遠ざけるために収穫後の管理が重要である。



## 3. 水場は餌場

イノシシの主食は植物だが、約6割の胃の中に動物質の食物が検出された。イモリ、カエル、水生昆虫、巻き貝などを採食しており、水飲み場やぬた場として利用される場所が餌場としても重要であることが示唆された。



## 被害対策のポイント

1. タケノコはタンパク質に富み、早春から初夏にかけての重要な食物である。管理されずに放置された竹林はイノシシの増殖を促している可能性がある。利用しないのであれば伐採するなどの対処が必要。
2. イネが狙われるのは、イノシシにとって食物が少なくなる8月である。ひこ生えも貴重な食物となるため、収穫前後の水田管理が重要である。
3. 耕作放棄地がぬた場になっている場合、そこは餌場としての価値も高い。水のある場所をイノシシから遠ざける工夫が大切。

<課題名> 捕獲個体からみた食性及び年齢構成の分析

<目的> イノシシの食性を胃内容物中の食物項目と化学組成の両面から調査し、さらに捕獲個体の年齢・体重・栄養度等との関係を明らかにすることによって、各季節におけるイノシシの食物要求の側面から食害を予測し、農作物被害の軽減に役立てることを目的とする。また、イノシシ個体群の質や動態の傾向（増大速度等）の差異の検討を行い、個体群管理上有用な資料を得る。

<成果の問い合わせ先>

細井 栄嗣（ほそい えいじ）

山口大学農学部生物資源環境科学科生物生産科学講座

山口市大字吉田 1677-1

電話 : 083-933-5826

メール : [hosoi@agr.yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hosoi@agr.yamaguchi-u.ac.jp)